

野外保育の記録

品川戦時託児所 齋藤八重子

日本は戦つてゐる文字通り國を舉げて
!!、國民皆勤が指導者階級によつて提唱さ
れると否とに關らずアツツの勇士、サダル

カナルの勇士の奮戦に、ブーゲンビル島航
空戦の戦果に應へる爲銃後の婦女子は老若
をとわず國家目的の中に溶け入らずには居
られないであらう。それら國民の情熱の結
果生じて來る問題は乳幼児の保護である。

學童ならば或程度保身のすべもあらうに
乳幼児にはおぼつかない事である。それ
ら子供等は街に放り出されてゐる。それ
も畸形的都會人口密度は空閑地の時價をはね
上らせ、猫の額の如き空地すら野菜畠と化
し子供等は日増しに路面へ〜と追ひやら
れて來る。その爲の災禍は警視廳の統計を
俟つまでもない。

東京都では昨年春より幼稚園及託児所の
利用範疇外の幼児を對象として戦時託児所
の保姆が中心となり勤勞奉仕員(女學校の

最高學年又は婦人會、親切部隊の援助を受
け野外鍊成保育を行つて來た。

尚品川戦時託児所では都立第八高女の御
好意により家庭科及研究科の方々十一名の
奉仕を頂く事になり、場所の選定、地元町
會との交渉、野外保育の趣旨期間場所等を
知らせる爲の回覧板風のプリントを各隣組
へ廻して頂く他方、班別旗、徽章の作製、折

り紙、鼻紙、鼻緒、針糸、紙芝居等々細々
とした道具を取揃へて準備をするのも託児
所の嫁入の様に忙がしい。更に女學校奉仕
班の方々を中心に子供の身體的精神的取扱
に對し検討しあひ技術的な遊戯唱歌折り
紙、團體遊び自由遊び等野外保育期間中に
行ふ豫定のものを傳授し用意萬端をど、の
へ開所の日を待つのもほのぼのと胸のとき
めく思ひである。

さて紙數の許される範圍内に野外保育日
誌を拾つてみよう。

十一月十二日 金曜日 C十五度

野外保育始まつてより三日目、午前九時
五分の班別旗の下にもう百名近くの子供が
集つてゐる。登所道中隣組を單位とする世
話係のお母様の顔も晴々として楽しさう。

笑顔で飛んで來る。お早ようござぬます
〜のつぶてもこの仕事をやるもののみ知
る醍醐味、出席をとれば同日も百二十名、
朝禮も随分巧くなつた。第一日目は結んで
開いてすらまるで啞の行列の様だつたのが
もうすつかり自分のものにして元氣よく樂
しく歌ふ。

「ソトカラカヘツテウガヒガラ〜」

「タベルマヘニハテラアラヘ」

「スキキラヒスルコハヤセボウズ」

健康カルタも秋空のもと幼児等の唱和す
る聲になにか尊いものを感じる。紅葉の歌、
遊戯律動手拍子等大分正しく出来る様にな
つた。今日は二人で組んでやらせてみる、
變化があつて面白相なれど廻るころが出
來ない子供が大分ある。奉仕班の方のニコ
〜、象さんの童話に暫し興す。今日は薩摩
芋が手に入つたので町會の婦人部の方々が
勞力を提供されて美味しく煮される。タベ

ルマヘニハテヲアラヘと地で行かせる爲に今日は特別世話係のお母様も出勤奉仕班の方々と手洗ひに大童、各班ごとに下駄を纏めて集會所に坐る、子供等はお客様に行つた様に緊張する、兵隊さんとお百姓さんに感謝を申し上げ頂く。かうして午前中の保育を終る(註おやつを午後三時にしなかつたのは野外の關係午後より學童も多く學童を刺戟せぬ爲)

午後中餐を済した幼児は一時頃徐々に班別旗のもとに集つて来る各班擔當の奉仕班員と共にそれ〴〵遊び興じ二時午後の集會を行ふ。

紙芝居ピータ兔に見入つてゐると突然近くに出火、お母様方は武裝してかけつけて来る。先生子供どう致しませう、大丈夫々々お子様方は私達で守りますから早く消火に、どうなげせば、お願ひ致しますと元氣よく現場へどかけつけてゆく。火事の言葉なきいた時子供等はどつとさわきさうになる。大丈夫々々先生と一緒にだからといへば幸火事場を背に向けておつたので二三人の氣弱い子供が泣き出したのみで落着いて紙芝居を見る。

紙芝居後は圓形に團體遊びの豫定なるも火勢未だ衰へずムク／＼黒煙を噴上げてゐるのをみせたり圓形に擴がつて仕舞つては收拾に困難と縦列のまゝ童話團體遊びを行ふ。かけつけて来る蒸氣ボンブの音で色めくも一とき、どかくする事一時間餘漸く煙は白くなる。

世話係のお母様方も徐々に子供を引きよりに来る。小さい子供がフラ／＼出てこなかつた爲消火活動が思ふ様に出来ました、と大事にならずに何よりでしたと答へる一面、若しこれが第一目であつたらと……肌えに粟を生ずる思ひ。かうしてこの一日も終る。

十一月十九日 金曜日 C十度

最終日 閉所後集會所に於いて参加保育兒のお母様方の母の會を行ふ、出席者約五十名、區の厚生課長、係長、町會側代表、方面委員の方もお見え下さる。

奉仕班の女學生側よりの感想では、我儘の子供が一番問題となる。空襲時に備へ隣組單位としての團體訓練の必要、次代東亞の指導者たらしめる爲に積極性の子供を切望すれば母親側より、短期間の野外保育に

もら拘ず效果の著しさに驚嘆なし長期に互つての繼續を要望

外に遊ぶ事の出事なかつた子供が近所の子供と遊ぶ様になつた。

スキキラヒスルコハヤセボウズと先生がおつしやつたから僕なんでも食べるといふ様になり食事教育が大變樂になつた。

火事の時は本當に思ふ様に活動が出来てありがたかつた。

先生方の御苦勞に報ゆる爲になにかの方法で自分達母親の手でこの仕事を續けたい。

等々素朴なお母様方の感謝の表現はつくろを知らぬ様子。最後に當所長高橋重先生

は

國運隆々として世界に誇る今日の日本を築きあげましたのは世々代々我が子を愛し育みつゝ、繰り返し参りました日本のお母さん達であります。然しその長い間の限りなき慈愛と隠れた努力に對してお母さん方に

酬ゆるところが如何に少なかつたかは男尊女卑の考へ方から参ります母性の處遇に對して無關心であつた過去の歴史が明かに物語つて居る所であります。然るに最近にな

りまして人口の増殖即ち將來お國の役に立つ立派な働き手を澤山生めよ殖やせの建前から母性保護の問題が取り上げられ殊に日支變から大東亞戰爭の今日朝野を擧げてお母さんを保護せよの聲が高く唱へられる様になりましたのは誠に欣ばしい次第であります。

今日の子供が大君の子、國の寶であると同様にお母さん方も大事なお國の母でありますからその御心持御覺悟をもちまして將來の日本を強くする優れたお子さんに育て上げて雄々しい日本の母の責務を果して下さる様御願ひ致します。の激励の言葉に日本の母性としての喜びを倅を満面に漲らすのであつた。私は一年間約五回の野外保育を受持つて來た山の手の所謂インテリ層の中心にある寺院の境内に商人街の中心にある寺院に、遊廓に取巻かれてゐる寺院の境内に、又この度の様に工場の騒音と省線東海道線等賑やかに往來する鐵道線路とに挟まれて營みをもつ官舎の中にあるさゝやかな廣場にと、場所を變へて行つて來た。新しい場所に新しい幼児が私達を俟つてゐた、居を移す毎に孟母三遷を痛切に感じさ

せられるのであつた。

幼児のもつ本質的の美しき伸びんとする逞しい力等はどの場所にもたのもしく感じたものゝ、環境のにじみ出す子供の姿に争はれぬものを感ずるのであつた。

インテリの獨善と無氣力個人主義、商人的腰の低くさと大衆性且協力性、遊廓街の子供の言葉の猥褻と早熟、かうも違ふものと果然眺めるのであつた。

お話遊び

東京 番町幼稚園 徳久智江子

お正月を過ぎると、追ひかけられる様にあわたしく日があつて、幼児が國民學校へと進む日も間近になりました。體も、心のびくと成長し、遊びも一段と充實して來た此の頃、遊びの一つの材料として此の「お話遊び」を作つて見ました。

白ちやん兔

これはお母さんの言ふ事を聞かなかつた兔が、散々な目にあつて、それから「ヨイ兔」になるといふ筋で、時間は約十二分

今期の如く職を同じ處に奉じ且同程度の

住居生活を維持する官舎特有の組織とそれへの無條件服従と獻身的協力、更によりよき方向へ進まんとする逞しい意慾は幼い子供の世界からも、はつきりよみとれるのであつた。

私共は今までになく、これら團體への愛情と希望と去り難き思ひを抱きつゝさよならをするのであつた。

位と思ひます。

登場人物

お母さん兔：一人

白布の鉢巻に耳をつけ前かけを掛けスカートをはく

子供の兔……五人

同様に耳をつけチャン／＼と着る

蜂……四、五人

背中に大きく羽根をつけ頭に茶色の帽子をかぶる

蕪……十人二十人

赤と白の帽子の上に蕪の葉を立ててかぶらせる

唱歌隊：二十人位

準備